

今話題の事件といえば

今経済界でどういう風な決着に落ち着くのか注目されていることといえば例の王子製紙が北越製紙にしかけているTOB 敵対的株式公開買い付けについてです。年間売上高約 2 兆円の日本を代表する一流企業の王子製紙が業界 5 位売上高 1000 億約 20 分の 1 に過ぎない北越をどうしても子会社にしたいという法的違法はないにせよかなり強引な手法が功を奏するか という点についてです

この話が突然出てきたのが7月23日ですがこの事件には、私的にはもうちょっと違った角度、新聞やテレビの報道ではないところからの情報が大変面白いのです。実は新潟在住のインターネットの知人で4.~5 歳上だと思うのですが以前この北越製紙に勤務し、その後自分で会社をおこして何か機械の設計やら加工もしている中小企業の社長です。北越の出身ということでいまもなお会社に出入りしメインの取引先でありもし北越が乗っ取られでもしたら長年育ててきた自分の会社もどうなるか。お先真っ暗という訳で、報道にはないような内部事情が聞けて大変興味をもってみております。 北越製紙という会社は昭和39年の新潟地震の時大変な被害を受け会社が潰れるかも知れないという時に賃金カットとかいろんな苦しいことを乗り越え、会社と労組が一緒になって協力し立ち直り製紙とすれば大きくはないけど最新設備を誇っており同程度の機械を王子が7~8人で動かすところを6人で動かせると言われていて収益性ははるかに高い、まして三菱商事との 303 億の第三者割当ての増資がおこなわれて新設新潟工場9号機が稼動し始めたら王子としたら大変こまる 市場価格の調整も出来にくくなるという読みで一挙にTOBに走りました

しかし先のような事情で従業員も自分の会社 或は、新潟、長岡にある地元の資本金220億の優良企業ということで地元にも大変愛され社長三輪正明さんも技術屋さんだそうですがリーダーとして労働組合との関係もすこぶるいいんです。すぐさまTOBに労組として反対声明をだしました。乗っ取りにあえば部長以上役員も追われるでしょう。そうやって拡大してきた王子のやり方をみれば明日はわが身かと思うのも無理のないところでしょう。自社の老朽化した設備を廃棄し北越の最新設備を使用し製紙業界のシェアをたかめ価格の値上げをしたいのが王子の狙いなのです。しかし8月に入って少し様子が変わりました。業界2位の日本製紙が10パーセントまで株を買い進め、王子の思惑どうりにはささんよというのがでてきて行方はますますわからなくなりました。9月4日のTOB終了するまで王子は買入価格を上げるとかなにかしないと成就できないかもしれませんが私は県民の感情や地元企業、興亜損保、銀行が動かない限りちょっと難しくなったのではないかなと思っています。